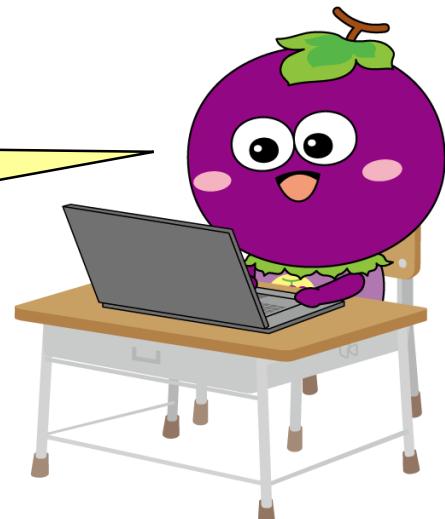


# 学校規模適正化・適正配置に関する 市民アンケート ～説明資料～

学校の未来予想図を  
みんなで考えましょう！



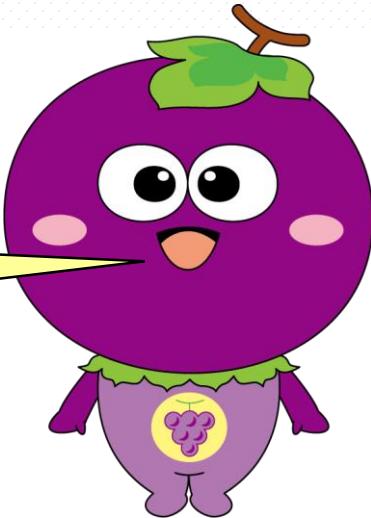
羽曳野市教育委員会

※図やグラフ等の文字が少しこよいため、拡大または大きな画面で  
見ていただきますようお願いいたします。

いつも羽曳野市の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本日は、全国的な少子化による児童生徒数の減少に伴う羽曳野市の中学校、義務教育学校の現状と課題をお話しさせていただき、**これからの中学校の在り方に関する市民の方のご意見を聞かせていただくためのアンケートを実施させていただきます。**

その前に、少しお時間をいただき、  
次の説明をご覧にいただきますよう  
お願いいいたします。

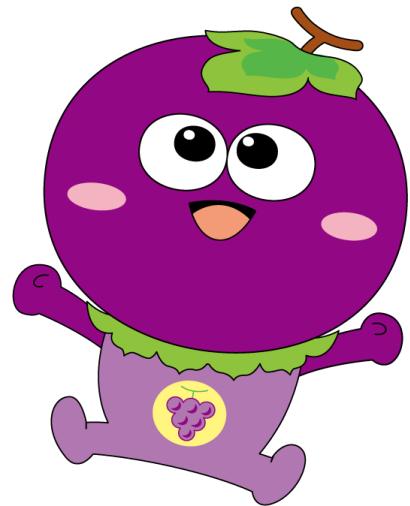


# まずは、市内小中学校の成り立ちです…

羽曳野市の小中学校は、  
小学校は、明治6年頃に5校が、  
中学校は、昭和22年に2校が、  
創立されました。

その小・中学校から分離・統合をして、  
現在の13小学校、5中学校、  
1義務教育学校になってきました。

それを図にすると、次のようにになります。



# まずは、市内小中学校の成り立ちです…

## 小学校

明治  
初め

古市小

駒ヶ谷小

高鶯小

西浦小

丹比小

埴生小

昭和  
中頃

古市南小

白鳥小

高鶯南小

恵我之荘小

高鶯北小

羽曳が丘小

埴生南小

はびきの  
埴生学園

平成  
上旬

西浦東小

平成  
最後

昭和  
上旬

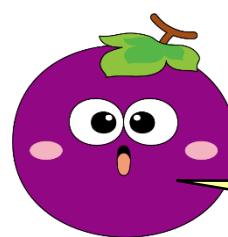
中学校

菅田中

高鶯中

義務  
教育  
学校

昭和  
中頃



羽曳野市の学校は、上の図のような流れでできてきました。

峰塚中

高鶯南中

羽曳野中

河原城中

# 羽曳野市立学校の児童・生徒数の移りかわり

## 羽曳野市立小中学校の児童生徒数の 移りかわり



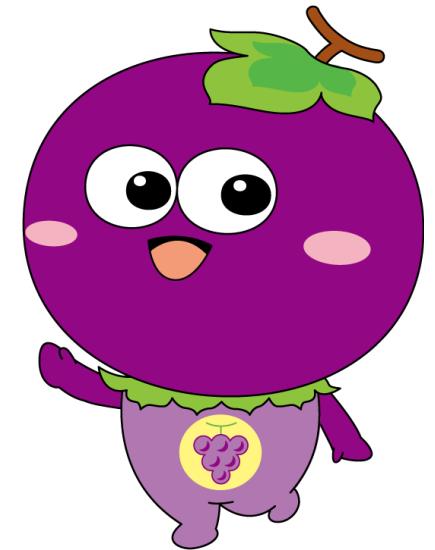
市内で一番新しい小学校が  
できた翌年1988年から  
2025年までに31年間で、  
学校数は変わらないにもか  
かわらず、  
小学校で約59%  
中学校で約53%  
に減少しています。



全国的な少子化により、  
羽曳野市でも児童生徒数が  
減少の一途をたどっています。

その結果・・・・

**各学校の小規模化が進んでおり、  
子どもの育成における  
大きな課題が生じています。**



最近は毎年、小学校で100名程度、中学校で50名程度、全体で150名程度減少しています。



# 羽曳野市立学校児童生徒数

令和7年5月1日現在

学校名			1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学校名				1年	2年	3年	合計
古市	小学校	児童数	40	65	60	52	73	68	358	誉田	中学校	生徒数	110	115	122	347	
駒ヶ谷	小学校	児童数	11	19	10	15	19	15	89	高鷺	中学校	生徒数	98	108	97	303	
西浦	小学校	児童数	38	59	55	61	63	68	344	峰塚	中学校	生徒数	251	287	230	768	
高鷺	小学校	児童数	41	44	53	61	45	57	301	高鷺南	中学校	生徒数	141	128	142	411	
丹比	小学校	児童数	53	60	62	53	62	58	348	河原城	中学校	生徒数	118	149	159	426	
羽曳が丘	小学校	児童数	86	102	125	106	129	122	670	はびきの埴生学園後期		生徒数	52	54	49	155	
白鳥	小学校	児童数	41	36	38	50	35	37	237	合計		生徒数	770	841	799	2410	
高鷺南	小学校	児童数	91	80	91	94	68	74	498					小中合計		7082	
古市南	小学校	児童数	38	52	35	48	46	45	264								
恵我之荘	小学校	児童数	67	50	56	48	71	63	355								
埴生南	小学校	児童数	95	88	76	77	82	89	507								
高鷺北	小学校	児童数	42	42	33	53	40	44	254								
西浦東	小学校	児童数	8	21	24	20	24	17	114								
はびきの埴生学園前期		児童数	64	62	40	60	61	46	333								
合計		児童数	715	780	758	798	818	803	4672								

※上記 はびきの埴生学園は順に7年、8年、9年の人数を記載

昨年度からの人数比較（令和7年：-137名）

令和5年度

7,394名

《内訳》

小学校 4,886 名  
中学校 2,508 名

令和6年度

7,219名

《内訳》

小学校 4,776 名  
中学校 2,443 名

少子化により、  
児童・生徒数が減少し、  
学年のクラス数が少なくなると、  
柔軟なクラス分けが  
できなくなります。

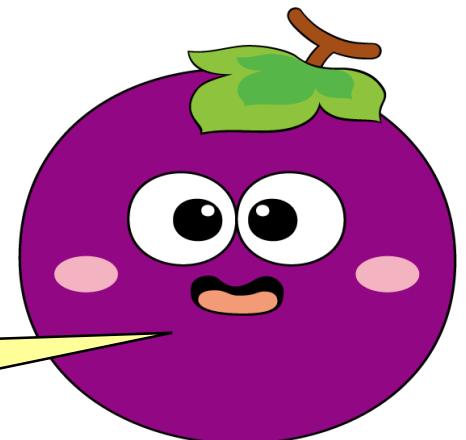


そうなると、どのような課題が  
出てくるのでしょうか？

# 児童・生徒数の減少に伴う現状の課題

- ①人間関係の固定化
- ②コミュニケーション能力が向上しにくい
- ③小集団から大集団への戸惑い、小・中・高の段差拡大
- ④新しい価値観が生まれない
- ⑤比較対象がない切磋琢磨ができない
- ⑥学校行事の制約（費用面・人数面）
- ⑦部活動の選択肢が減少等

それぞれの課題について、  
例を挙げて説明します！



小規模化により、クラス分けがむずかしくなると…

## ①人間関係の固定化

- 例) 関係がよいと、居心地がよく、それ以上拡げようとはしない。
- 例) 関係が悪くなると、距離を置くことができず、深刻化の危険性がある。
- 例) 長期間、同じ集団にいるため、人間関係の拡げ方を学ぶ機会がない。



## ②コミュニケーション能力が向上しにくい

- 例) 小学校では6年間、中学校では3年間、集団が変わらないため、新たな人間関係の構築する機会がない。
- 例) 少人数のため、施設や道具の使用に不便がなく、我慢する、譲り合う、調整する等の社会性の育成がむずかしい。

小規模化により、クラス分けがむずかしくなると…

## ③小集団から大集団への戸惑い 小・中・高の段差拡大

例) 中学校入学で他校と一緒になる機会に、初対面のコミュニケーションの取り方がわからず、新たな人間づくりに不安を感じる。

例) 高校進学時に、別地域の生徒と出会い、新しい大集団に適応できない可能性がある。

## ④新しい価値観が生まれない

## ⑤比較対象がない 切磋琢磨ができない

例) 同じメンバーでの議論となり、意見交流の場面で、新たな価値観や新たな考え方に対する機会が少ない。

例) 発言者、発案者、調整者、リーダー等が固定化され、新たな立ち位置を体験することが少なくなる。

小規模化により、児童生徒数、学級数が少なくなると…

## ⑥学校行事の制約(費用面、人数面)

- 例) 宿泊行事の交通費を少人数で分割するため、一人の単価が上がる
- 例) 少人数であるため、行事が成り立たなくなる可能性がある。  
チームスポーツやスポーツ行事の対抗戦ができなくなる。  
準備等の人数が不足して行事運営が困難になる。

## ⑦部活動の選択肢が減少等

- 例) 中学校の学級数減少により、教職員数が減少し、部活動顧問の配置に限界があり、活動の安全確保が難しくなる。
- 例) 教員数減少に伴い顧問配置に限界があり、部活動数を減らすしかない。

## 現在、学年クラス数の少ない学校では…

課題を補うために、メリットを活かしながら、必死に工夫しながら教育活動を進めています。



しかし、物理的な課題は、  
どうしようもない状況になってきます。



# このような課題解決のために…

令和5年から教育改革審議会を開催し、次のような事項を  
諮詢しました。

## 【諮詢事項】

「羽曳野市立小学校、中学校及び義務教育学校  
の適正規模化及び配置の適正化に関すること」

この諮詢事項の中には、**配置に関する事項もあり羽曳野  
市のまちづくりの観点も含め検討をしました。**

その結果…

令和7年2月に、  
羽曳野市教育改革審議会より

羽曳野市立小学校・中学校・義務教育学校の  
規模及び配置の適正化に関する答申



が出されました！

# 教育改革改革審議会 答申

## 【学校の適正規模について】

- 1 小学校では人間関係がそれぞれの段階において固定化しない学校規模にしていくことが望ましい（概ね1学年2学級以上）
- 2 中学校では教科指導の体制が確保できることを前提にした学校規模にしていくことが望ましい（概ね1学年4学級以上）



施設状況や学習・心の育成を含めた教育活動が円滑に実現できる規模が適正であると考えます

小学校

| 学年2～3学級程度

中学校

| 学年4～6学級程度

## I 小学校では人間関係がそれぞれの段階において固定化しない 学校規模にしていくことが望ましい（概ね1学年2学級以上）

とは？

- 6年間を通して、クラス分けができ、1年間で成長した仲間との毎年の新たな出会いをして、人間関係づくりを経験できる規模です。
- 一定規模の集団の中で、切磋琢磨したり、新たな役割にチャレンジしたり、さまざまな考え方の仲間と良好な関係を維持しながら関わりあうことができる規模です。

## 2 中学校では教科指導の体制が確保できることを前提にした学 校規模にしていくことが望ましい（概ね1学年4学級以上）

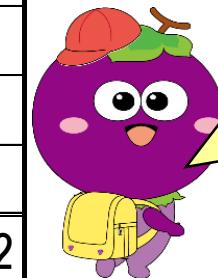
とは？

- 学校の教職員数は、学級数によって決まります。学年4学級以上の規模であれば、各学年に国社数理英5教科の先生が各教科1名ずつ、音美体技家の実技4教科のいずれかの教科の先生を1名ずつ配置できる可能性がある教員数になり、教科指導を充実させることができる規模です。
- 多感な思春期の生徒たちに対して、柔軟なクラス分けが可能になる規模です。

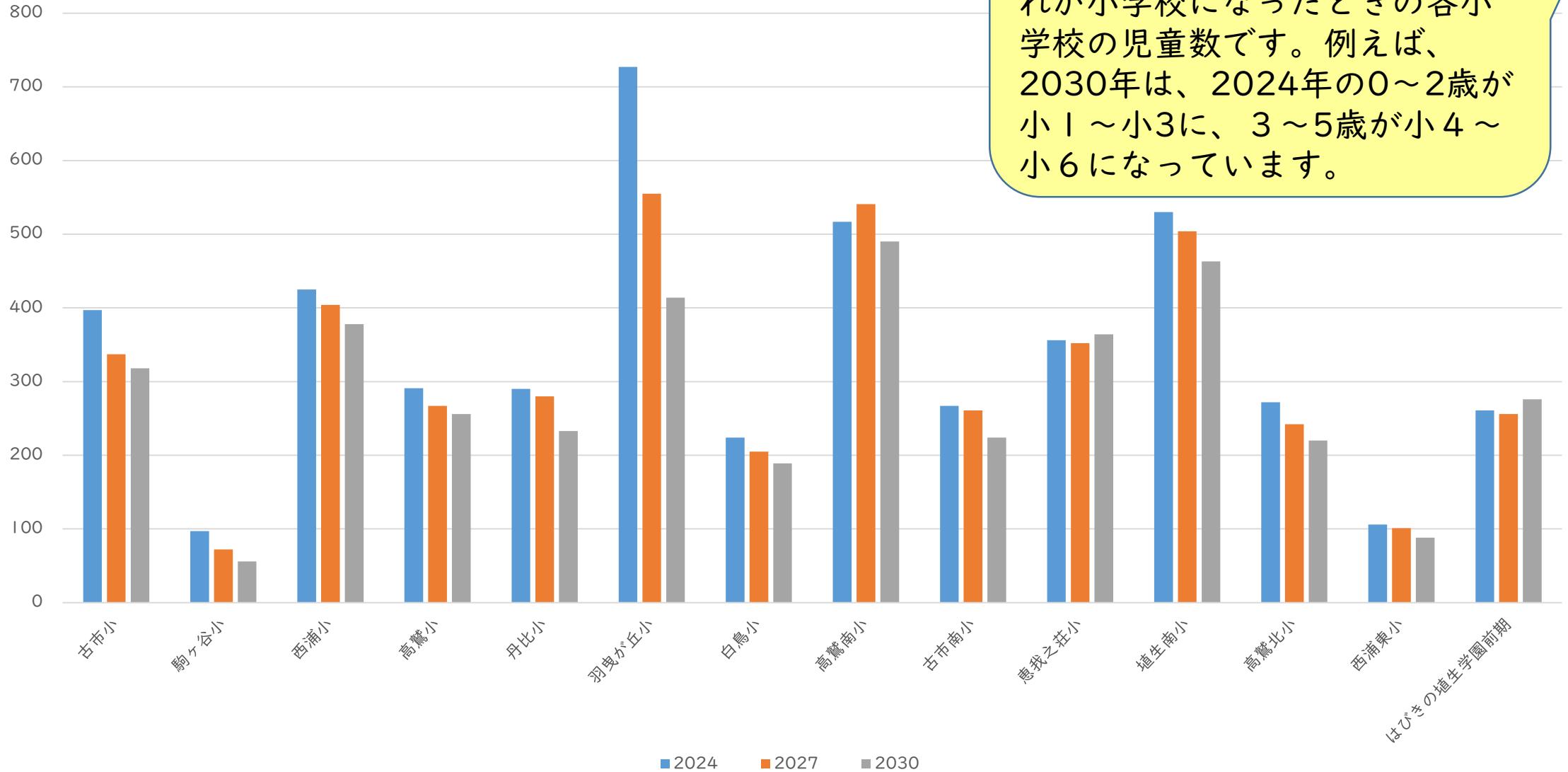
# 羽曳野市立学校児童生徒数

令和7年5月1日現在

学校名			1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学校名				1年	2年	3年	合計						
古市	小学校	児童数	40	65	60	52	73	68	358	誉田	中学校	生徒数	110	115	122	347							
駒ヶ谷	小学校	児童数	11	19	10	15	19	15	89	高鷺	中学校	生徒数	98	108	97	303							
西浦	小学校	児童数	38	59	55	61	63	68	344	峰塚	中学校	生徒数	251	287	230	768							
高鷺	小学校	児童数	41	44	53	61	45	57	301	高鷺南	中学校	生徒数	141	128	142	411							
丹比	小学校	児童数	53	60	62	53	62	58	348	河原城	中学校	生徒数	118	149	159	426							
羽曳が丘	小学校	児童数	86	102	125	106	129	122	670	はびきの埴生学園後期		生徒数	52	54	49	155							
白鳥	小学校	児童数	41	36	38	50	35	37	237	合計			生徒数	770	841	799	2410						
高鷺南	小学校	児童数	91	80	91	94	68	74	498	※上記 はびきの埴生学園は順に7年、8年、9年の人数を記載													
古市南	小学校	児童数	38	52	35	48	46	45	264	表の○の学年が、 先ほどの適正規模より小規模で 小学校では学年1クラス 中学校では学年3クラス以下 の学年です。 このことからも、今の学校の小規 模化の現状がわかります。													
恵我之荘	小学校	児童数	67	50	56	48	71	63	355														
埴生南	小学校	児童数	95	88	76	77	82	89	507														
高鷺北	小学校	児童数	42	42	33	53	40	44	254														
西浦東	小学校	児童数	8	21	24	20	24	17	114														
はびきの埴生学園前期		児童数	64	62	40	60	61	46	333														
合計		児童数	715	780	758	798	818	803	4672														

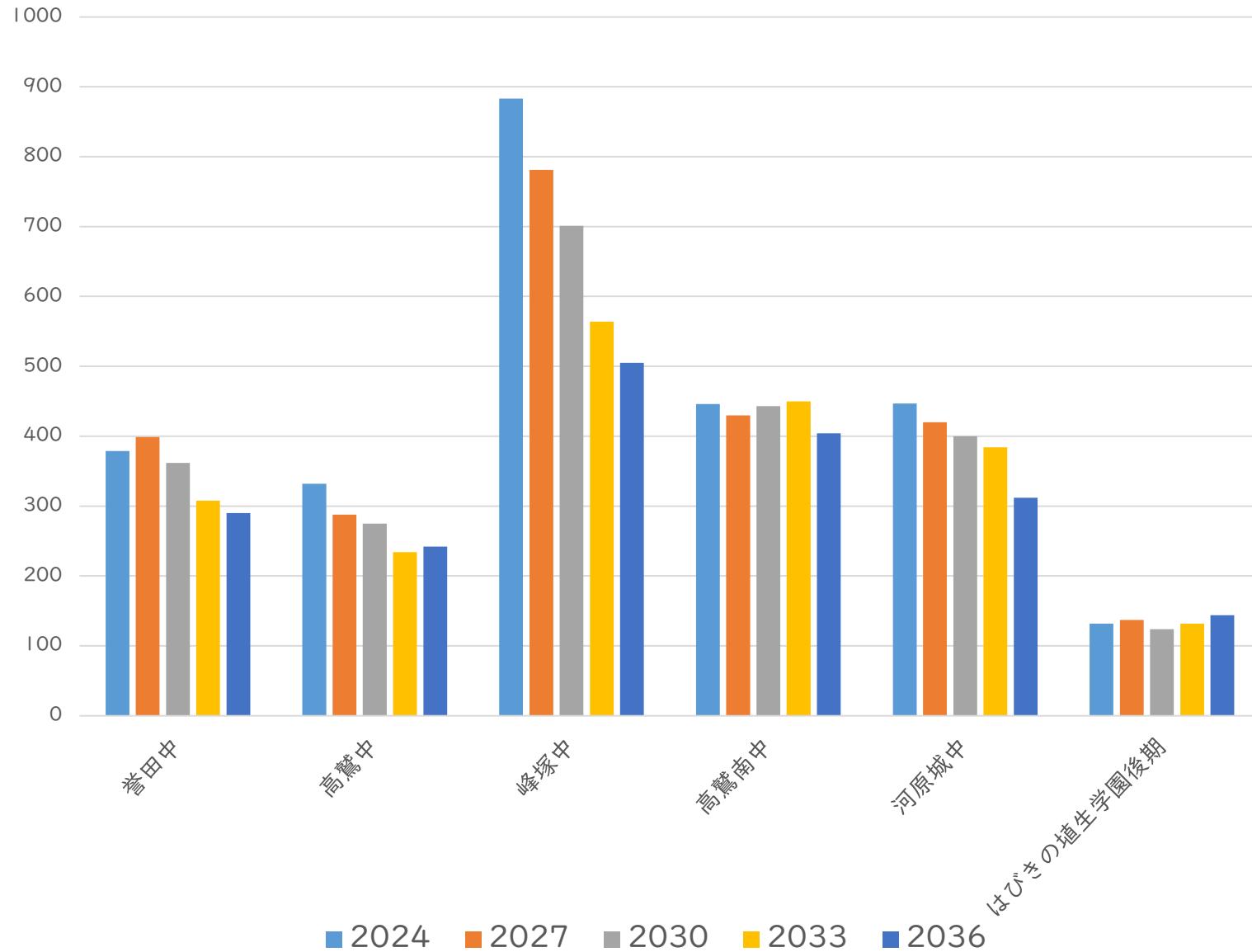


## 現0～14歳の学校別児童生徒数の推移（小学校）



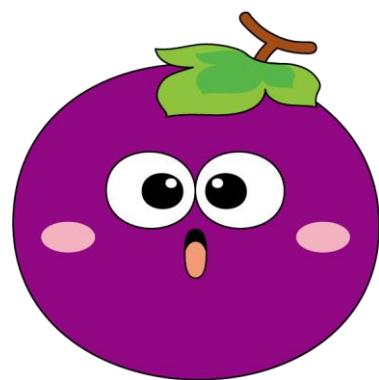
2024年の0～14歳の子どもを、  
3年ごとの世代に分けて、それぞ  
れが小学校になったときの各小  
学校の児童数です。例えば、  
2030年は、2024年の0～2歳が  
小1～小3に、3～5歳が小4～  
小6になっています。

## 現0～14歳の学校別児童生徒数の推移（中学校）



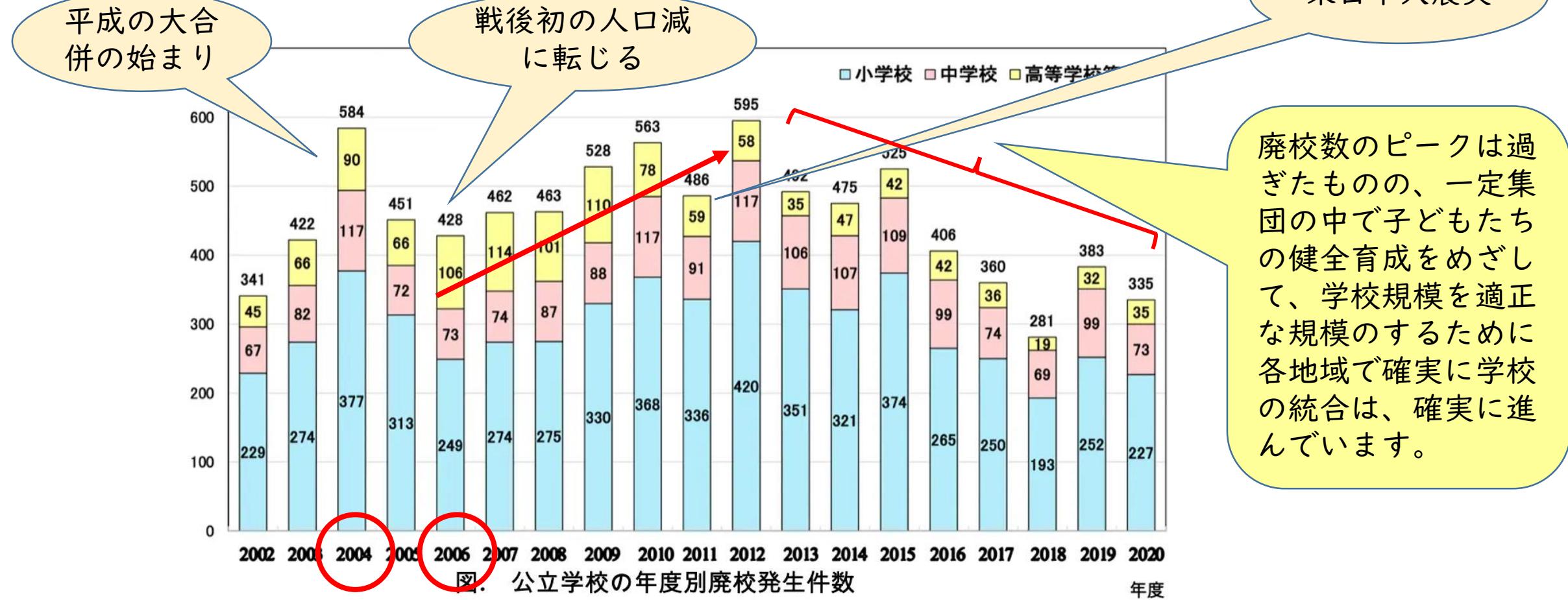
2024年の0～14歳の子どもを、3年ごとの世代に分けて、それぞれが中学生になったときの各中学校の児童数です。例えば、2036年は、2024年の0～2歳が中1～中3になっていきます。

全国に視点を移すと、  
そういった児童生徒数の減少による  
学校の小規模化を踏まえて、  
多くの都道府県で学校の統合が進んでおり、  
統合された学校の廃校が進んでいます。



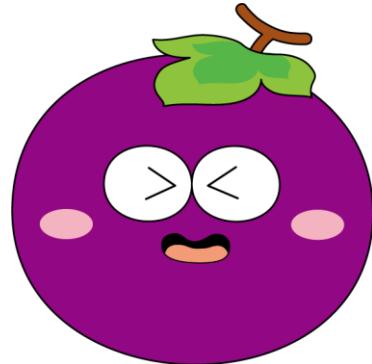
次の図は、その状況をグラフに  
したもののです。

全国に目を向けると、少子化の影響による児童・生徒数の減少を受けて、2002年度から2022年度のおよそ20年間で、全国で7,399校が廃校しています。20年間の廃校を学校種別でみると、小学校は5,678校、中学校は1,721校となっています。



羽曳野市においても、児童・生徒数の減少に伴い、  
小・中学校の小規模化は、確実に進んでいます。

今後も児童・生徒数の減少が  
進行すると見込まれる中、  
子どもたちを一定集団の中で、  
新たな出会いや関係づくりを体験することで、  
コミュニケーション力や社会性を育成し、  
義務教育を終えるためには、

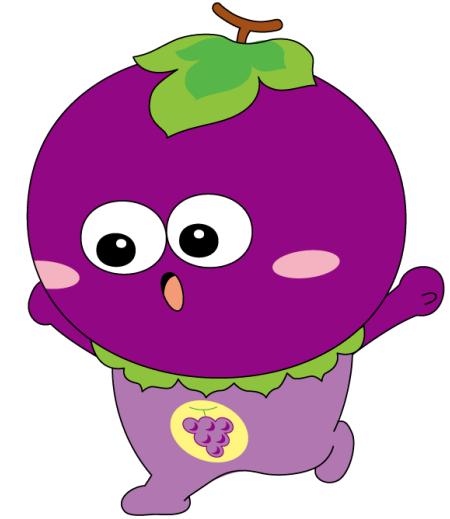


**現在の学校数を維持することは、  
たいへん難しいと考えています。**

そして…

一定規模を確保するための  
学校規模適正化・適正配置を  
進めるための方法として、

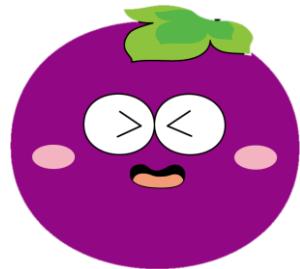
答申では…  
次のような留意点を記載しています。



## 【適正配置について】

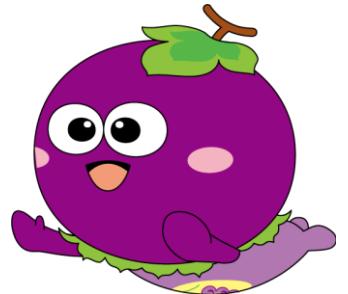
- 1 市全体のまちづくりと密接に関係することから市の関係部署と連携していくこと
- 2 他の公共施設の設置状況を十分に考慮すること
- 3 学校間の距離、通学の安全を考慮し、市域全体が維持・発展できるように配慮すること
- 4 パブリックコメント募集等、現在学校に通う子どもも含め、広く市民の意見を収集すること

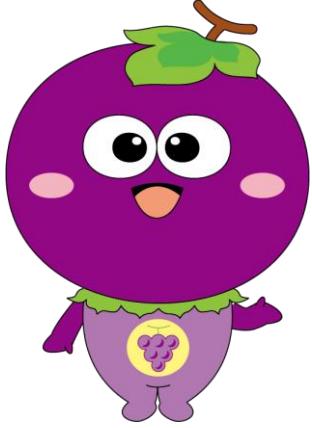
令和7年2月の答申をもとに、今後、教育委員会として  
**「まちづくりの観点を踏まえた学校規模適正化・適正配  
置について」** 具体的な方策の検討を始めてまいりたいと  
考えています。



それに伴い、現在の**学校施設の老朽化**が  
進んでいる状況も考慮しなければなりません。

ただ早急に計画するものではなく、  
**市民の方の意見を聞きながら、**  
**時間をかけて進めていく必要があります。**

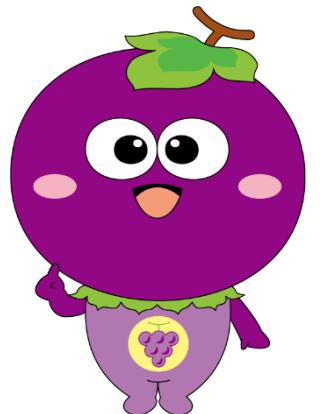




子どもは羽曳野の財産です。その子どもたちが社会に出ても、**自分らしく生き生きと生活できる生きる力を育むことが学校の理念です。**

すべては**未来の羽曳野市の子どもたちが安心安全かつ心身ともに健康で充実した学校生活を過ごすことができるような教育環境づくり**を大前提に、**学校の統合や校区の再編も視野に入れ**て、検討してまいります

地域・保護者のみなさまのご理解とご協力を  
切にお願いするものです。  
ご理解の程、よろしくお願ひいたします。



その市民の方への情報提供と意見を聞く機会の  
第1弾として、次の取組みを実施しました。

<教育改革審議会答申報告会>

8月27日（水）19：00～

高鷲中学校 体育館

8月29日（金）19：00～

高鷲南中学校 体育館

9月 3日（水）19：00～

峰塚中学校 体育館

9月10日（水）19：00～

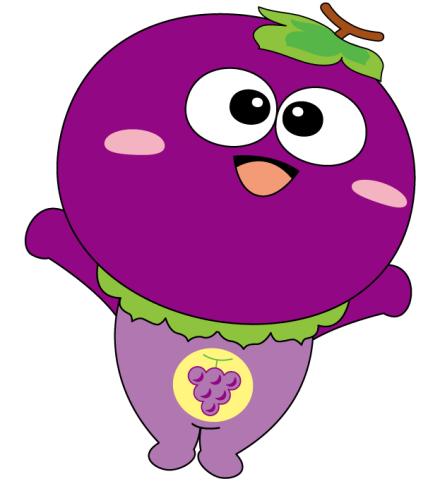
はびきの埴生学園 第2体育館

9月12日（金）19：00～

河原城中学校 体育館

9月17日（水）19：00～

誉田中学校 体育館



ご参加いただいた方には、心より感謝申し上げます。

ただ、残念ながら、参加者数がとても少なく、情報提供と意見をお聞きする十分な機会にはなりませんでした。

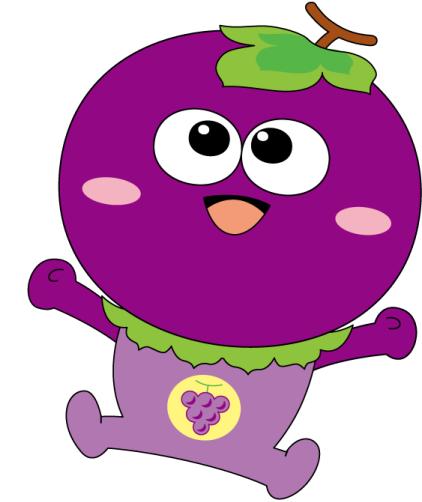
そこで……

市民の方のご意見を聞くために、  
アンケートを実施いたします。

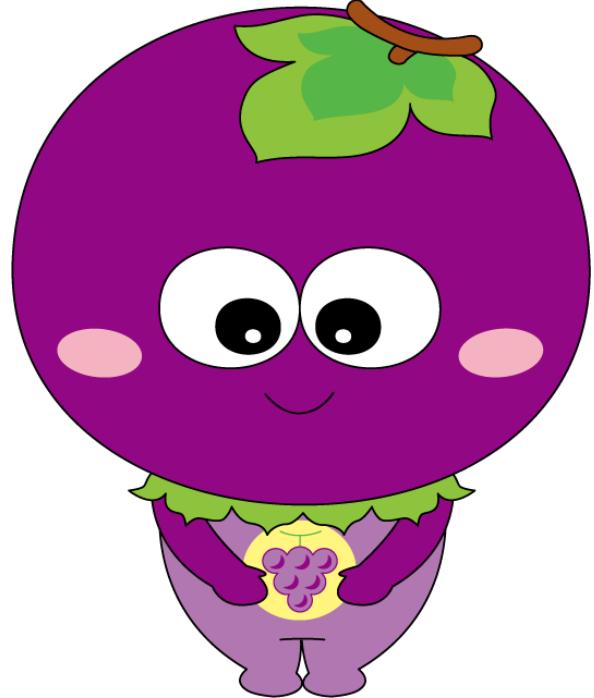
いくつかの質問にお答えいただき、  
また記述欄もありますので、

できるだけ多くのお声を聞かせてください。

今後も、情報提供やお声を聴く機会を設けたいと考えて  
おります。その時は、広報「はびきの」や市の公式SN  
S、学校のtotoru配信等でもお知らせしますので、ぜひとも  
ご参加いただきますようお願いいいたします。



# これらの説明について、 市民の方のご意見をお聞かせください！



## 【アンケートのお願い】

この説明資料を見て、アンケートにご協力ください。下記のURLをクリックまたは2次元コードよりアンケートフォームにアクセスいただき、ご回答ください。



[市民アンケートURL]

<https://logoform.jp/f/cPoW6>